

四地学術交流に関する申合せ

許育銘，江沛，周太平，田中仁，丸田孝志，山田康博，李朝津

2010年2月22～23日（大阪大学）

- 1) 2009年8月26日作成の「学術交流覚書」に従い，東アジア地域における学術交流の発展を図る。
- 2) 組織委員会を組織し本申合せに関わる諸事項を協議する。
 - 2-2) 組織委員会の委員は，2009年8月26日作成の「七者申合せ」第二項に掲げたものとする。
 - 2-3) 委員の増員などは委員会の合意による。
- 3) 国際研究集会の名称（主題）を「現代中国と東アジアの新環境（現代中国與東亞新格局）」とする。
 - 3-2) 天津（第1回，2007年），花蓮（第2回，2008年），大阪（第3回，2009年）で開催した国際研究集会の成果をふまえて，2010年以降，引き続き国際研究集会を開催する。
- 4) 第4回を2010年夏に贛南師範学院（贛州）で，第5回を2011年夏に内モンゴル大学（フフホト）で，第6回を2012年夏に台北大学（台北）で開催するとともに，その成果の公刊をめざす。
- 5) 研究集会ごとの共通論題（副題）を設定する。
- 6) 研究報告の内容は，研究集会ごとの共通論題（副題）に関わる報告と，「現代中国と東アジアの新環境」（主題）に関わる自由報告とする。
- 7) 三地各校の大学院生やポストドクター等若い研究者の研究発表と交流の場を設ける。
- 8) 会議開催に関わる経費は，基本的に参加者の自己負担とする。同時に，主催校は可能な範囲でこの経費を援助する。
- 9) それぞれの研究集会の共通論題・議事日程などは主催校が提案し，組織委員会が確認・決定する。

【注記】

- 2-2) 「七者申合せ」第二項：「学術協力覚書（学術合作備忘録）」を作成・署名する（6人）。今後の学術協力については，署名しなかった丸田氏をふくめ7人が協議にあたる。

諸般の事情を考慮して，組織委員会は，江沛，許育銘，田中仁，周太平，李朝津，丸田孝志の6人により立ち上げる。

- 2-3) 地域性を考慮して香港と韓国各1名の増員を検討する。

江沛，田中仁，丸田孝志，陳進金
2013年8月22日（大阪大学）

【注記（改訂）】

2-2)「七者申合せ」第二項：「学術協力覚書（学術合作備忘録）」を作成・署名する（6人）。今後の学術協力については，署名しなかった丸田氏をふくめ7人が協議にあたる。

諸般の変化を考慮して，組織委員会は，江沛，許育銘，田中仁，周太平，丸田孝志，陳進金の6人により構成する。

江沛，許育銘，田中仁，丸田孝志，柳鏞泰，許衛東
2015年2月1日（大阪大学）

【注記（改訂）】

2-2)「七者申合せ」第二項：「学術協力覚書（学術合作備忘録）」を作成・署名する（6人）。今後の学術協力については，署名しなかった丸田氏をふくめ7人が協議にあたる。

諸般の変化を考慮して，組織委員会は，江沛，許育銘，田中仁，周太平，丸田孝志，陳進金，柳鏞泰，許衛東の8人により構成する。

江沛，許育銘，田中仁，丸田孝志，柳鏞泰，許衛東，三好恵真子，潘宗億，林相範，鄒燦
2017年8月26日（大阪大学）

【表題の改訂】

「三地学術交流に関する申合せ」を「四地学術交流に関する申合せ」に改める。

【第7項（改訂）】

7) 四地各校の大学院生やポストドクター等若い研究者の研究発表と交流の場を設ける。

【注記（改訂）】

2-2)「七者申合せ」第二項：「学術協力覚書（学術合作備忘録）」を作成・署名する（6人）。今後の学術協力については，署名しなかった丸田氏をふくめ7人が協議にあたる。

諸般の変化を考慮して，組織委員会は，江沛，許育銘，田中仁，周太平，丸田孝志，柳鏞泰，許衛東，三好恵真子，潘宗億，林相範の10人により構成する。

江沛，田中仁，丸田孝志，柳鏞泰，許衛東，三好恵真子，潘宗億，ナランゲレル，金志煥，鄒燦

2018年8月18日（ソウル大学）

【注記（改訂）】

2-2)「七者申合せ」第二項：「学術協力覚書（学術合作備忘録）」を作成・署名する（6人）。今後の学術協力については，署名しなかった丸田氏をふくめ7人が協議にあたる。

諸般の変化を考慮して，組織委員会は，江沛，許育銘，田中仁，周太平，丸田孝志，柳鏞泰，許衛東，三好恵真子，潘宗億，金志煥の10人により構成する。